

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-169	13-117
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
<p>Emergency department-based brief intervention to reduce risky driving and hazardous/harmful drinking in young adults: a randomized controlled trial. 若年層における危険運転および過量飲酒を抑制するための、救急治療室における短期介入試験 ～ランダム化比較試験～</p>		
執筆者		
Sommers MS, Lyons MS, Fargo JD, et al.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 Oct;37(10):1753-62. doi: 10.1111/acer.12142.		
キーワード		PMID
短期介入、過量飲酒、危険運転		23802878
要 旨		
<p>目的： 危険行動が多くなりがちな人々(例えば若年層)に対する介入を行うことで、危険運転や過量飲酒といった健康を損なう恐れのある行為を減らせる可能性がある。</p>		
<p>方法： 危険運転歴および過量飲酒歴のある、18～44歳の救急治療室への入院患者476名を、短期介入群150名、調査対照群162名、非調査対照群164名の3群にランダム割り付けを行った。短期介入群に対してはベースライン調査および短期介入(救急治療室における1対1での20分間の介入)を実施、調査対照群に対してはベースライン調査のみ実施、非調査対照群に対してはいずれも実施しなかった。3、6、9、12ヶ月後時点(短期介入群、調査対照群のみ。非調査対照群は12ヶ月時点のみ)での運転行為および飲酒量について自己申告にて情報を得た。</p>		
<p>結果： 6ヶ月または9ヶ月時点までにおいて、短期介入群は調査対照群に比べ有意に危険行動者の割合が低値であった。12ヶ月時点においては有意ではなかった。12ヶ月時点で短期介入群と非調査対照群との間に有意差はみられなかった。</p>		
<p>結論： 救急治療室での短期介入が、その後の若年層における危険運転および過量飲酒を減らせることが示唆された。しかしながらその効果は介入後9ヶ月までしかみられなかった。介入効果を延長させるためのさらなる研究が望まれる。</p>		